

全國保險醫新聞

発行所  
全国保険医  
団体連合会  
東京都渋谷区  
代々木2-5-5  
☎ 151-0053  
新宿農協会館内  
☎ 03 (3375) 5121  
FAX 03 (3375) 1885  
発行人/住江 憲男  
振替口座00160-0-140346  
購読料千円+1ヶ月750円  
(会員の購読料は、会  
費に含まれています)  
<http://hodanren.doc-net.or.jp>

今号は憲法特集号

4・5 面

カフェで語ろう  
憲法の値打ち

子どもたちの未来のために



日本国憲施行から68年。そして戦後70年を迎える節目の年。安倍政権は平和と憲法の解釈を変え、集団的自衛権の行使に向けた法整備を進めている。そんな中、子育て中の「ママ」たちがカフェでつづるきながら政治や憲法を語り合う緩やかな集まり「憲法カフェ」が広がっている。当初は政治に関心のなかった多くのママたちは、放射能から子どもを守る取り組みをきっかけにカフェで学び、憲法は「自分たちを守るためのえの存在」と考えられるようになってきた。全国保険医団体連合会で被曝問題に取り組む飯田哲夫副会長が「憲法カフェ」立ち上げのきっかけを作った太田啓子弁護士に、憲法改正の動きやママたちの思いを聞いた。

国際基督教大学卒業。2002年弁護士登録。湘南合同法律事務所所属。幅広く一般民事事件、刑事事件を扱う。2012年12月より出張法学習会「憲法力フル」を始め、メディア掲載多数。

このつながりを生かして憲法の問題を考える集い「憲法力フェ」の話を

いやりました。

しています。

◆ ◆ ◆

憲法に関心のなかった

「3・11」以降、子ども  
の被曝や食品の放射能汚  
た。

「憲法力エ」が始まったのは、福島第一原発の事故がきっかけだった。尿検査をしたら放射性セシウムが検出され、当時下の子を妊娠中だった

るよう市に要望し始めました。働きながら子育てしている方が多く、多忙で、それまでほとんどつながない方がありませんでした。ところが、2011年3月の

—の3本を柱にみっちり  
お話します。

これまで政治の話をす  
る経験のない人が大半の  
ため、一人一人の意見を

なりの論客となった方もいます。



聞き手 飯田副会長

—「3・11」直後、福島から遠く離れた私の地元の申奈川から、父村が、飛園のママたちと、保育園で、子どもとママたちとが、まっすか。なぜ、「カフエ」なので

2時間の講義で、①そ  
もそも憲法とは何か、そ  
して「立憲主義」につい  
て、②自民党改憲案と集

—非常に熱心に話を聞いてくれ、立派な発言もします。政治に無関心だつたこの二、三時間の憲法力

持ちかけました。忙しいママたちは普段、政治や憲法のことを考える時間をなかなか持てません。当初は、話が大き過ぎる「原発で精一杯」と言われましたが、地域で顔が広いママや市議さんらの協力も得て、「憲法力フェ」が始まりました。

[illegible]

ママたちは、その中で愛  
わっていったですね。

朱号

4・5 面



憲法カフェが紹介された人気女性ファッション誌「VERY(ヴェリイ)」を開きながら

# みんなが憲法に関心を カルチャー作りたい

## インタビュー 弁護士太田啓子さん

1面から

気軽に憲法を語り合う集い「憲法カフェ」の取り組みについて、保団連の飯田副会長が弁護士の太田啓子さんに話を聞いた。

◆ 今、安倍首相は、集団的自衛権の行使や安保法制の整備を進めていますね。存立事態という概念を持ちだし、憲法9条の下で武力行使を可能にしようとしています。

―安倍首相は、中国など東アジアの脅威からの防衛を根拠に集団的自衛権を行使すると宣伝しています。憲法カフェに集まるママの中でも、カフェで学んだことを家で話したら「中国が尖閣諸島に攻めてきたらどうするのか。おまえの主張は理想論だ。夫に言われうまうと答えられなかった」と

や北朝鮮が攻めて来たら備えが必要ではないか」という論調を振りまき、安保法制整備の世論作りをしている。

◆ 残念ながら、現段階では、ほとんどの国民はこの違いに気付いていないと思います。国民の無関心を利用して政府がミスリードし、改憲につなげようとしていることは許しがたい行爲です。

◆ 「自衛隊だけが戦地に行く」「海外で人道支援目的だから」とどこか他人事と捉えられているようにも思われます。

◆ 憲法に関心がないわけではなく、シチュエーションを提示するのが私たちの役割だと思っています。誰かがトップダウンで引っ張るのではなく、押しつけでもなく、みんなで試行錯誤しながら進めていくこと、共感しあい、広がり続けることを大切にしたいです。



「憲法カフェ」から、安倍政権が進める集団的自衛権の行使や憲法改正まで、幅広く語り合った

デモを「バレード」と言い換えたり、「怒れる女子会」と銘打って元気な子育て世代で政治談義をしたりと、楽しく盛り上げていきたい。政治や憲法について意見を表現する

政治に関心がないわけではなく、シチュエーションを提示するのが私たちの役割だと思っています。誰かがトップダウンで引っ張るのではなく、押しつけでもなく、みんなで試行錯誤しながら進めていくこと、共感しあい、広がり続けることを大切にしたいです。